

会議（打合せ）報告書			
会議(打合せ)の 名称又は議題	平成30年度 第3回 白井市産業振興ネットワーク会議 会議録		
日時	平成31年2月1日（金） 午後2時～午後4時30分	場所	白井市役所 本庁舎 災害対策室1・2
出席者	<p>森吉委員長、野水副委員長、小川委員、山口委員、押田委員、駒村委員、石毛委員、井上委員、輪島委員、米田委員（欠席委員4名）</p> <p>事務局：湯浅市民環境経済部長、川村産業振興課長、山口主査、綿崎主任主事、 紫尾主事、和田主事補</p> <p>議会事務局：田沢主任主事</p> <p>傍聴者 7名（うち4名、白井市議会都市経済常任委員会から福井副委員長、長瀬委員、石田委員、和田委員）</p>		
<p>（会議開催の趣旨）</p> <p>白井市産業振興条例第8条第2項に基づき、産業振興に関する施策を調査審議するため、平成30年度第3回の白井市産業振興ネットワーク会議を開催した。</p> <p>（内容）</p> <p>次ページ以降のとおり。</p>			

○森吉委員長 皆さん、こんにちは。お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。インフルエンザがはやっていて、きのうは雪も積もると嫌だなと思っていたら、雪のほうは積もらずに済んでよかったと思いますが、皆さんも気をつけていただきたいと思います。アメリカのほうは今すごく寒波で大変なようですけれども、私はエンジンの研究をやっているので、CO<sub>2</sub>を減らして温暖化を防ぐという研究をやっているのですけれども、地球は本当に温暖化しているのかという議論もあるのですけれども、実は理論的には、エネルギーを地球がためようとすると、夏はますます暑くなり、冬はますます寒くなる、そういうふうにすると、エネルギーは実は温度差をつけることで、ためることができるというのがあったので、ですから今後も平均気温は上がっていきますけれども、夏はより暑く冬はより寒くなっていくだろうということで、ますます住みにくくなりますけれども、そこら辺を人間の知恵で何とかしたいということで、こういうネットワーク会議で皆さんからのご意見をいただければと思っています。

きょうは、冒頭、都市経済常任委員会との意見交換会を最初に行うということで、よろしくお願ひしたいと思います。

○事務局 森吉委員長、ありがとうございます。

それでは初めに、都市経済常任委員会委員と産業振興ネットワーク委員との意見交換会を始めたいと思います。これより意見交換会の中の司会は議会事務局にお任せしますので、よろしくお願ひいたします。

○議会事務局 皆様、改めまして、本日はよろしくお願ひいたします。

では、進行を進めさせていただきます。

ただいまより、産業振興ネットワーク委員と都市経済常任委員会委員との意見交換会を始めさせていただきます。

まず初めに、白井市議会都市経済常任委員会福井副委員長よりご挨拶を申し上げます。

○福井都市経済常任委員会副委員長 本日は、血脇委員長がお休みをするということで、私がかわりにご挨拶をさせていただきます。

本日は、大変、皆さんお忙しい方々ばかりですのに、私たち委員会のためにお時間を割いていただきまして、本当にありがとうございます。白井市の議会のほうでは、議会活性化の一つとして市民の委員の皆様方といろいろな意見交換会をしようということで、自分たちの所掌事務のところにある団体の方と、意見交換会を毎年1回ずつしております。今回は、ぜひ白井市の産業についての皆さんのさまざまなご意見をいただいているところですので、意見交換会ということで、議会とさせていただければと思っておりますので、よろしくお願ひをいたします。

○議会事務局 続きまして、出席者の自己紹介としまして、都市経済常任委員会副委員長から順番にご紹介のほうをお願ひいたします。

○福井都市経済常任委員会副委員長 今、ご挨拶をさせていただきました福井と申しま

す。委員長には、お休みですけれども、ここに血脇がいますと教えてください。それから、今日は副議長の幸正議員が、所用があってお休みをしておりますので、失礼させていただきます。

あとは、石田委員から自己紹介をお願いいたします。

○石田都市経済常任委員会委員 同じく委員会の石田信昭と言います。住まいのほうは白井市の神々廻という田舎のほうに住んでおりますので、本日はよろしくをお願いいたします。

○永瀬都市経済常任委員会委員 同じく常任委員会の委員でございます永瀬洋子でございます。私は石田委員とは違って、白井市の白井駅の南口から徒歩5分ぐらいのところのニュータウンの集合住宅に住んでおります。工業団地の方とは何回かお話し合いをしたことがあるのですが、こんなふうに産業全体の方とお話しするのはきょうが初めてですので、よろしく申し上げます。

○斉藤都市経済常任委員会委員 こんにちは。同じく常任委員の斉藤智子でございます。私は西白井の駅から徒歩四、五分の大山口に住んでおります。きょうはどうぞよろしくをお願いいたします。

○和田都市経済常任委員会委員 同じく委員の和田健一郎と申します。住まいは白井の印西側にあります桜台に住んでおります。また、私自身としましても、今回のことで、白井の産業振興ということをおなりにとしましても、世界に近い成田空港とのつながりをもっとどうこの町でやるか、さらには白井の産品を使った味の名産品ということ、実は今ビールを開発ということをやったりしております。さらには、その中で私は、本来の専攻は法学部の政治学科だったのですけれども、ちょっと通信工学もやっております、その関係でコミュニティラジオのFMの無線技術者もやったりしている関係で、どうPRしながら産品を産業、農業、工業を超えた上でやっていくかという形のことを非常に私も力を入れて頑張りたいなと思っているところでございますので、皆様ともそういったところで意見が交換できることを楽しみにしておりました。よろしく申し上げます。

○議会事務局 続きまして、産業振興ネットワーク森吉委員長から順番にお名前と所属をお願いいたします。

○森吉委員長 先ほどご挨拶しましたけれども、この委員会3期目ですか、最初から、私、当時、千葉大学の産学連携機構というところの副委員長をやっております、それで千葉大のほうにお願いがあって、私に声がかかったということで。専門は自動車のエンジンで、今後電動化すると皆さん思われているかもしれませんが、まだまだエンジンは続くので、そのCO<sub>2</sub>をいかに減らすかということを中心に研究しております。こういうところは余り自分の専門ではないのですが、いろいろ皆さんの意見を聞いて、私の意見も申し上げて、お役に立てればと考えております。よろしく申し上げます。

○委員 私どもは、県の外郭団体として、県とか国の補助事業だとか委託事業、そういったようなものをいただきながら県内の中小企業の各種支援事業を実施させていただいております。私、企画調整室という部署に在籍しております、産業振興センター全体の業務を見させていただいているので、その辺で白井市さんのほうでやられるいろいろな中小企業支援の部分である程度ご協力できればなという形で参加させていただいております。よろしくお願いします。

○委員 白井工業団地の現在、代表理事をやっております。会社は、ステンレスの鋼材や加工されているお客様に必要なだけの素材を供給するというを毎日やっているということでもあります。

それで今このノートを持ってきて、振興ネットワーク用のノートなのですが、1ページを開いたら、2010年9月30日14時から、市庁舎正庁にて、「横山市長、歳入をふやしていきたい、一緒につくっていきたい」なんていうメモを私はして。あ、そうか、もう何だかんだ、この流れが、ことし2019年ですから、10年目なのですか、2010年の9月のノートが初めてですから、そういう意味では長くかかわっております。何とかこの白井市の産業が少しでも発展していくということで、この会が推し進められていくことを望んで参加しているわけです。よろしくお願いします。

○委員 商工会の今、副会長をさせていただいております。職業は商工会のすぐ前で、昔は酒屋をやっていたのですが、最近はおまえ弁当屋だろうと言われて、弁当が中心で、今、息子が中心で弁当を中心にやっています。よろしくお願いいたします。

○委員 一応、商工会女性部の部長をやらせていただいております。この会に参加したのは、ことしで3年目かな、全然わからないことだらけでちょっと場違いかなと思いつながら、私の仕事は印刷のほうの仕事をしております。市役所からも仕事をいただいているのですが、なかなか大変です。この振興ネットワークで少し勉強させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員 白井工業団地にあります企業に属しております。弊社のほうは、インクを練るロール、そのメーカーから今、工業用のロールまでつくるようになっておりまして、一応オンリーワン技術ということを目指しまして、世界に向けて製品をつくらせていただいております。幸いなことに、今回、広報しろいのほうにも載せていただきましたので、ご参考にいただければとも思うのですが、地域のほうを目指しまして長くやらせていただいているおかげで、地域とともに発展している途中でありますので、今後とも皆様と一緒に弊社のほうも発展していきたいと思っております。皆さんからのご意見が交換できれば幸いです。よろしくお願いいたします。

○委員 この会議、ネットワークには3期ぐらい、その前にふるさと産品の委員もやっておりました。なぜやっていたかと申しますと、食べ物の開発をしていたのです。食べ物の開発という観点から、梨のコミュニティセンターでS級グルメの会というのがあります。

して、そこで梨を使ったメニューを開発しようということで、私も料理が好きなものですから、そこで何年か開発して小冊子にまとめました。その中で私の作品が二つあるのですけれども、そういうことも含めまして、そういった食べ物の研究とか開発、そういったものの考えが役立つかなというのと、それと今介護ボランティアをやっているものですから、ボランティア協会のメンバーになって、介護施設にギター演奏に行っています。そういうボランティア活動なんかも市の産業に役立つんじゃないかという、そんな観点から一緒に出させていただいて意見交換をさせていただいております。よろしくお願いします。

○委員 今は西白井に住んでいるのですけれども、もともと北海道の生まれで、その後、群馬に行って、大阪に行って、東京に行って、結構転々としていたので、いろいろな地域から見た状況とか、あとはしがらみがないのです、私、この町に全く。仕事もしていないですし、親戚がいるわけでもないの、自由な立場から好きなことを言わせていただいております。よろしくお願いいたします。

○委員 家族がインフルエンザのため、きょうは皆さんに移してはいけないので、マスクをしたままで失礼いたします。私は、千葉銀行の白井支店の支店長で、昨年4月着任させていただきまして、昨年よりこちらの会議のほうに参加させていただいております。現在、国が推し進めております地方創生におきまして、私ども地域金融機関でございますので、我々の銀行の持てる知見を生かしまして、皆様と一緒にいろいろ考えながら、白井市の発展に貢献できればと思っております。よろしくお願いします。

○委員 白井工業団地協議会の理事と、それから商工会の理事を兼ねて出席させていただいております。私どもは、知的財産をベースにしたものづくりということで、独自ブランドで小さい会社ですけれども、自社製品を世に送り出しているということです。主力は、アルミを押出材を加工して製品をつくっているということなのですが、それ以外にもいろいろな非常に広範囲に取り組みさせていただいております。基本的には何か問題があったら、その問題を解決しようと、問題を解決すればきっとそこには新しいもの生み出されると、ですから、問題があるということはすばらしいことだというふうに考えています。その問題をちゃんとテーブルに上げて、そしてみんなで話し合っただけで答えを見つければ、そこには道が開かれるし、夢も生まれてくるだろう、希望も出てくるだろう、そう考えて仕事を続けております。

この町でも何か問題がある、こういうことが問題があるのだということが明確になれば、もうできたのと同じと、そこには一つの道筋が見えるというふうに考えております。ですから問題を嫌がらずに、嫌だなと逃げないで、その問題に正面から取り組んでいくことが肝心ではないかと。そのためにも皆さんと一緒に答えを見つけることができれば、すばらしいじゃないかというふうに思っております。以上です。どうぞよろしくお願いします。

○議会事務局 ありがとうございます。これから意見交換会に入らせていただきます。  
なお、意見交換会の様子を議会だよりに掲載したいと思っておりますので、写真撮影について、ご了承いただきますようお願いいたします。

それでは、進行は福井副委員長をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

○福井都市経済常任委員会副委員長 皆さんの自己紹介が終わって、産業振興ネットワークがどういうものかということは、委員の皆さんもわかっていらっしゃるだろうと思いますので、前回の会議の議事録等を読ませていただきましたら、白井の課題というのですか、今、課題が見えれば、それは道が見えるのだというようなことをおっしゃっておいりましたけれども、前回の議事録を読むと、白井の課題が何なのか、そしてこれから白井のまた取り柄といいますか、いいところはどうかというように話が話し合われていましたので、今回はそんなところを中心にまず話し合いをできたらなと思いますので、よろしくをお願いいたします。

自由に、さっと手を挙げてくだされば、私が指してよろしいでしょうか。今、言いましたように、今、白井の課題というものを大きく捉えて、農業にしろ、商業にしろ、工業にしろ、皆さんがどんなふうに考えていらっしゃるのか、課題が見えればよくわかるとおっしゃった駒村さん、道は見えるとおっしゃったようですが、いかがでしょうか。話をしていただけますか。

○委員 私が知っている限りで申し上げると、農業の話も後継者がいないと、だからやめるのだということが問題になっていたと思うのです。そのことについては、やってみないと、一つには仕事として後継をやってみたいという方もいらっしゃるだろうし、バイトでも助っ人でもボランティアでもやってみないと、やってみたいという人がどれだけいるだろうかと。できればこの白井市内で、区域内でそういう方がいらっしゃるかなと。あるいは農業も後継者がいないということであれば、後継者のいる農業の農家の方が、そういう後継者のいない方と連携して何か協力関係でやっていくことができないかなとか、あるいは第三セクターをつくって、そういう農業をサポートする仕組みを考えてもいいのではないかなと、そんなことも出てくるのですけれども。

しかし、どれ一つとっても実際に進めるとなると、人間関係とか、いろいろ複雑系が出てくるので、難しいかとは思いますが、もつれた糸を少しずつ少しずつ絶えずやり続けることで状況は変わってくるだろうと思っています。まずはやってみると。答えになっているかわかりませんが。

○福井都市経済常任委員会副委員長 自由な意見交換会で、今、農業の方のお話が出ましたけれども、お隣お二人は商業関係でいらっしゃるのですね。

○委員 そうです。でも、私ももともとは農家に嫁いだつもりだったのです。だけど主人の仕事の関係で、今、印刷のほうをやっていますけれども。

私も昔、梨をちょっとやっていて、ほとんど一ちゃん農業だったのです。あとはパー

トさんと。女が1人でやって、あとパートさんというと、規模拡大とか労働面でかなり大変だったことがいっぱいあったのです。主人が今の仕事に就いたもので、農業のほうはほとんどやめる形になっちゃったのですけれども。うちの息子も高校、大学じゃなくて、ほかにアメリカのほうに行っていた、その間に私がやめちゃったもので、本人も農家をやるつもりで来たのかもしれないのですけれども、ちょっと戸惑ったような感じはあるのです。

私もまるっきりわからないところから出発しているので、私は逆に、農家ってすごくいい面がいっぱいあると思うのです。ただ、その面が、今のこの世の中というか、何年か前の農家だったらいいのですけれども、今の時代の農家というと、かなりの精神的な、何と言ったらいいのだろう、例えばパソコンはできなくてはならない、ある程度やらなくてはならないとか、そういう販売とかも自分のところで市場だけじゃやっていかれないとか、そういう面がいろいろあるので、難しいところがいっぱいあります。

○委員 今のような問題で、それこそパソコンができなきゃならない、じゃあパソコンのできる人とか、それから労力を提供できる人とか、あるいはブランド化をするとか、そういうアイデアとか、それからパッケージデザインとか、そういった一つの商品をつくるには、いろいろな要素が必要です。そういったものを一つのものとしてまとめていく仕組みというかセンターのようなものがあれば、それは各農家にみんな共有して使えるじゃないですか。そういったことをみんなでやっていくことが、本来はこれは私が言うことじゃなくて、梨業組合の組合長さんから梨どうしようかということで、我々にサポートしてよと、知恵を貸せよと言って、我々は何ができるかを考えると、やはりそういうところと一緒にコラボをすると、いい結果になるんじゃないかなと、難しい面もたくさん出てくると思うのです。でも、難しければ難しいほど、成果が上がったときにはすばらしい結果になるだろうと、そう思いますけれども。

○委員 そうですね。私の知り合いですけれども、個人的に、自分のところだけじゃさばき切れないとか、あとどうしても市場に出せない梨とかがあるじゃないですか。そういうのをどこと言ったか、青森とか向こうのほうに送って、それでジュースにしてもらって、梨を頼まれたところからそのジュースを入れて、あと梨を入れて、それで幾らですよって送ってあげると、すごく喜ばれたという人がいます。梨だけじゃなくてという感じもあります。

○委員 いろいろ白井の中で産業があるのですけれども、私はずっと前から言っているのですけれども、梨というのは非常に重要な産物であるし、白井の中の大きな収入源だと思うのです。梨一つスポットを当てて、先ほどちょっと言いましたけれども、それを使ったメニューの開発もあるし、あと観光、これから464が将来、成田と東京が40分ぐらいでつながるような道になりますね。成田空港に近い途中に梨の産地があるから、そこを観光地化して、梨の収穫時にもぎ取るツアーとか、それを外国の方に来てもらうよ

うな、難しい面はいろいろあると思うのです。そういったことをすると、通常の農作業というか、梨の作業がなかなかできないから、鎌ヶ谷とかあっちのほうは観光梨園がありますね。あそこまで行かなくても、そういった外国の方が立ち寄れるような観光資源としての梨のそういったブランド化というか、名所化というか、そういったのもあるし、メニュー開発みたいなものもあるし、それから梨の作業を体験するようなそういったイベントだとか、梨一つ上げて、すごいいろいろなことが考えられると思うのです。そういったところに若者なんかも興味を持てば、後継者の育成にもなるのかもしれないですね。だから、もう少し多角的に梨ということにスポットを当てて、いろいろな面で検討することが必要かなと思います。

○委員 確かに、それすごく必要なことなのです。それを先駆けてやったのが、そこにある I さんって、役所の向こう側に I さんでしたっけ、梨屋さん。サイゼリアの向こう側、反対側の。

○福井都市経済常任委員会副委員長 サイゼリアの前。

○委員 そのところ、I さんじゃなくて U さん、ごめんなさい、U さんだ。U さんが、ここら辺がこんなに開発される前、観光バスを呼んで観光をすごい大々的にやっていたのです。けど駐車場がだんだん、だんだんなくなって、バスがとめるところがなくなって、それでやめちゃったところもあるのです。

○福井都市経済常任委員会副委員長 S さんか何かでも、観光農園やっていましたね、以前。

○委員 けど、あのときは、まだこの役所の前の道路が自由に観光バスがとめられたから。けど、観光バスがとめられなくなっちゃったから、そういうので。白井には梨の観光組合というのがあるのですけれども。

○都市経済常任委員会委員 観光組合があるのですか。梨組合ではなくて。

○委員 あるのです。梨組合とは違う観光組合って、ある一部の人しか入っていないのですけれども。新田が中心になっているかな、新田の人たち、G さんとか。

○都市経済常任委員会委員 新田というのは。

○委員 白井新田、富士、ごめんなさい。富士、白井木戸かな。G さんという。

競馬学校のあの辺の人たちが中心になって、梨観光組合というのがあることはあるのですけれども。発足当時は、すごく皆さん若くて活発にやっていたけれども、今少し、だんだん年齢が行っちゃって、その辺でちょっとつまずきがあるのかな。

○石田都市経済常任委員会委員 今、農業の話が結構出ていますけれども、白井の中の農業の現状を見ると、恐らく後継者がそこそこのいるのは梨農家さんだけかなと、白井の場合、というように思いますけれども、ほかの例えば野菜農家さんなんかは、細かいところを見ると、なかなか後継者という点では難しいのが現状なのです。梨農家さんに限っては、収入も一定程度見込めるというのが、今の白井の農業の中で一番優先順位とし

ては、梨農家さんというのは高いのかなというように思いますけれども。

ただ、農家さんというのが、毎年の天候にすごく左右されやすく、必ずしもこの畑から100万円取れる、200万円取れるというものではなくて、工場の生産品みたいなわけにはいかなくて、つくっている人でさえ、お金を取ってみないとわからないというのが多分現状だと思うのです。

そんな中で、農家さんもある程度余裕がないとできないということもあります、確かに。ことし取ったお金で生活するのだじゃなくて、それなりの前年度、あるいはその前の余裕なり、あるいは不動産収入といったものがないと、なかなか農家を継続していくには難しいなというのが、本来自分も一部農家もやっていたのですけれども、そういうのがあるんじゃないかなというように思います。

それと、農家の場合は、不動産を多く抱えています。これは農耕地だけでなく、山林とかそういったものを抱えていて、やはりそういったものも活用するというのも一つ、農業面の反対のところに、そういった不動産の活用というものもありますので、それには都市計画とかそういったものが大きく影響して、昔のバブルの時代であれば高く売れたところが、今ではそれこそ二束三文の価格になっているというのが現状でありますので、農家の場合は、農業収入と不動産収入と、あとほかの収入といったように多角的に考えていかないと、なかなか農業だけでやっていこうというのは、非常に難しさがあるのが現状でないかなというように思います。

その中でも、白井市の中では梨農家さん、それと水田です。皆さんもご承知のように、米価については、ここ何年となく上がってなくて、かえって農家でも米を買ったほうがいくらの今の米価の価格なのです。そういうことを考えたときに、これから先、本当に農家でやっていこうというのは、非常に不透明であり、難しい状況なのかなというように思います。

そこで、先ほど観光という話も出ていましたけれども、大きく視点を変えて見ていかないと、今までの農家だけを続けていくというにはちょっと無理があるのかなというように思いますので、きょうのような話を参考にしながらできればなと思いますけれども。

もともと産業振興条例をつくるに当たっては、農業を入れたほうがいいのではないかなというのが、議会の中でもそういった議論がありまして、工業、商業、プラス農業というような、委員の方は、その辺の定義というのはよくご存じかと思っておりますけれども、やはり一体となった考え方がこの産業振興ネットワークさんのそういったご努力で道筋が開けていければなというように思いますけれども、よろしく願いいたします。以上です。

○和田都市経済常任委員会委員 三つほどの話になります。先ほど梨を使ったブランド品といいますか、白井の名産品を開発するというところで、私も個人でいろいろやっている方との連絡を取り合っている中でございまして、中でもやりましたのは、梨のドレッ

シングだとか、最近ではビールを、免許を近隣でクラフトビールをやっている方がいらっ  
しゃいまして、それは60歳で定年退職をして、もともと農業を大学のころ専攻していた  
ということでやってみた方。ただ、もちろん農業だけで収入しているというわけではな  
く、たまたま白井の農地をお借りして作っていたということでありまして、それだつた  
ら、ちゃんと作っていた白井のブランドということでやってほしいといひますか、そう  
いう方で白井のつくられた農品からのビールという形でやつて。

と申しますのは、梨と言ひますと、どうしてもハイシーズンしかないものですから、  
年中通して白井のお土産として、年中お会いした人に渡すということのできるかとい  
つたところがなかなか課題になつてゐるかなと。やはり産業という前に、まず白井を知  
てもらふという中でのツールとして大事だといふことが大きくあるんじゃないかなと思  
つてゐまして。さらに海外といふことで私、実践事例としてやりましたのは、昨年  
の3月に、台湾の南部の台南といふ、人口が大体200万人ぐらゐのマンゴーが名産の町  
の副市長がこの町を訪れまして、梨業組合、梨の当時はまだハイシーズンじゃなかつた  
ので、新興を食べていただきまして、非常においしかつたといふことで。

ただ、その話が続きがありまして、台湾のほうが不幸なことに鉄道事故が起きまして、  
もともと鉄道省関係の技監だつた方だつたので、昨年  
の年末に台湾の国鉄の総裁になつて、実は先週会つてきました。そのときにお渡し  
したのは、梨ゼリーと梨のブランドのブランデーケーキといふことでお渡ししまし  
て、沿線同士での交換といふことで非常に興味を持ってもらひました。

そういった意味で、交流といふことがありまして。非常に梨のハイシーズンのとき  
の梨を一度食べてみれば、すごくおいしかつたといふところが有名になつてゐたところ  
で、そういう意味では話題づくり、さらには農地に関しては、種まきをイベントでや  
りましたら、神奈川からも、わざわざインターネットで募集したら白井まで片道2時間  
以上かけてやつてきたといふことで、これで興味があるといふ方が非常に多いもの  
ですから、そこをどうマッチングさせるかといふノウハウの中で、ことし1年でやつて  
みた中でも、これが大きな動きになればあるんじゃないかなといふところを私も、  
その辺の手応えを感じてゐるところでありました。

やはり、どうしても生業といふだけでは農業が難しいといふことであるのですが、  
ただ、この近郊でつくられてゐる、週末でも農作業できる農産品だとか、  
そういう作り方が難しいものではなく、自分なりに食べてもらふといふような形  
では、非常に魅力ある土地だといふことは、ほかの都市部の方から見てわかつたこと  
と、あと海外で見ましたら、意外と国道付近でしたら、レンタカーを借りてゐるの  
でしようか、直売所に関しては、片言の日本語で買つてくれる方が多いといふ  
ことがある。これは白井市内でも多くありますので、そこら辺で、全体的に外国語  
で発信していくといふ形でも、需要が大きくあるといふ中でできるんじゃないか  
なと思つたりしてゐるところでございま

す。そういったところ、三つ同時に話しちゃったので、混乱しちゃったかなと思ったのですけれども、そういったところの話を受けまして。

○福井都市経済常任委員会副委員長 農業で、白井というと梨ということで、梨といえは非常に大きな問題で、梨ブランデー会社のようなものもあって、なかなか難しくなっているというふうなところがあるのかなと、梨で産業を興すということに関しては、難しくなっているのかなというような気がしますけれども。そこを恐れず、さっきの観光化とか、観光的な仕組みをつくったらどうかとか、私は、第三セクターをつくって農業をサポートするというようなもの、とてもいいアイデアだなというふうに思っていますが、それをどうやって実現して、組織化して生かしていくかというのは、それが今の産業振興ネットワークさんに託されているのかなというような気がするのですけれども、その辺はいかがでしょうか。

○委員 経緯の話に戻るのですけれども、先ほど9年前にこの立ち上げのときに、中小企業振興条例、これをつくりたいなということで、商工の方に働きかけ、その流れの中で商工振興課さんが取り組んでくれて、そのところで今、石田さんが言われるように、もう少し広げて農業者と同じテーブルでこれからの白井の産業を考えていこうよということが当初の立ち上がりだったのです。

それで今、梨が白井ではいつも話題になるのですけれども、ただ梨に限らず中小事業者、特に5人以下の事業者が非常に劇的になくなってきているというところが数字的にあるわけで、50名以上の事業者は、逆に言うと減っていないのです。かえってふえているぐらいです。そういう中で、中小の白井、かといって白井の場合は、大企業はほとんどないわけで、あるとすれば金融機関ださんがポツンポツンとあるよというぐらいないわけで、そういう意味では、地元の事業者さんがいかに発展していくか。そして特に今、課題になっているのは、農業だけでなく、中小企業も事業承継が大変だということで、昨年の春から事業承継税制等も相当手が加わってきているのですけれども、それでもなかなか後継者がいないためにやめていく、そして雇用が確保することが難しいというのが現状かなと思います。

工業団地も、協議会に入ってくれている会社さん260社、そして入っていない会社も含めれば300社ぐらいあるのですが、白井に本社を置いている会社さんが25%ぐらいしかないわけです。あとは資材置き場であり、工場でありという形なのです。そういう中で、白井の産業をどう活性化していくかということがここでずっと語られてきて、もちろん一つ一つ、農業であったり、商業であったり、工業であったりということを議論してやってきました。

具体的にここで決まったことは、こういう成果があったよということは、なかなかお示ししにくいのですが、それでも工業に関しては、いろいろそういう意味では、商工振興課も、今、産業振興課も含めていろいろな取り組みをバックアップしてもらってきた。

国からの助成金等を活用する活動も実施してきました。そんな意味では、市政を継続的に担保していくという意味では、意味のある条例であり、かつ会議であつたであろうというふうには思っております。

今、自分が考えているのが、この間、工業団地協議会の新年賀詞交歓会のときに、ほとんどの方に来ていただいているので、またかと思われるかもしれないのですが、やはり白井だけ見ていると、なかなか見えにくい。そういう意味で、隣の鎌ヶ谷と印西と比較してみると、どういうことなのかということであると、残念ながら業務の核となる場所がないなど。例えば白井駅にアクセス特急をとまらせたいたいなどは思ったのです。そうしたら西白井よりはずっと少ないのです、乗降客が、それじゃなかなか難しいです。そして、駅前にマンションはあるけれども、事業ビルがないです。私どもも残念ながら、数年前に新鎌ヶ谷に本社を移しました。

そういう意味では、白井は総合的な計画も、我々産業振興を担う者の意見も聞いて、何かそういうことも並行して、ここの場ではないかもしれませんが、我々も例えば労働署は船橋だし、税務署は成田だし、みんなそれはやむを得ないのでしょう。もともとは大地であり畑だったというところもあって。でも、ここの地域に何か業務の核になるような場所をつくっていききたいなどというふうには思っています。でも、産業を集積するためには、そういうことが必要なのだろうなど、私は今、思います。

そういう意味からすると、人口6万5,000になったら、その後は減っていくのだよということじゃなく、いろいろな集積して、ここに産業が維持されて、また発展していくような取り組みをしていっていききたいなど。あるいは議員の方たちとも交流し、お願いしていききたいなどというふうに思います。

当面、何かというと、工業団地的にはインフラの整備が必要なのだろうなどというふうに思っております。2番目は人手不足ですので、学校との連携を今やっています。子供たちのキッズアドベンチャー、ワーキングアドベンチャー、これはことしも継続的にやるし、また中学校、あるいは高校との連携。白井工業団地が身近にあって、ここにもいろいろな、すばらしい新しい取り組みが評価されて、写真が出る企業もあります。今月とかに。森田健作知事と一緒に撮っているような。そんな形ですから、工業団地には光る中小企業がたくさんあるわけです。そんな意味では、どんどんやっていければなどというふうに思っています。

だから、この産業振興ネットワークも継続的にいろいろな面の需要を取り上げて、市とネットワークを持ちながら進めていきたいと今も考えているし、千葉大学ともグローバルな流れの中で、ぜひいろいろな意見を、委員長としておいでいただいている、大変ありがたいです。そういう意見を集めていききたいというふうに思っております。以上です。  
○委員 今まで一、二年参加してきて、ずっと後継者不足だとか人口減、どんどん人が減っていくという話を聞いているのですが、農業、工業、商業に限らず、サラリ

一マン家庭で、白井で育ったお子さんが白井に残る割合というのを私は聞いたことがないのですけれども、御存じですか。要はそこで育った方が、そこに残りたいと思ってくれるようじゃないと、衰退していく一方だと思うのです。どうしたらいいかと、残っている人間に聞いても、割合気に入って残っていると思うので、問題点はあるにせよそこを選んで住んでいるわけで、逆に出ていって帰ってきていない方、これから出ていこうとしている方に、どうしたらここに住みたいか、何があったらここで暮らしていきたいか、どんな仕事があればここで働きたいかというのを聞いてみるというのも一つの手じゃないかなと思います。以上です。

○永瀬都市経済常任委員会委員 私は、千葉ニュータウンの2年目にここに越してきたのです、1980年。ですから、ここにそろそろ40年がたとうとしているのですが、自治会が毎年1回、白井の駅前でお祭りをします。そのとき自治会の役員をしていると、お手伝いに駆り出されるのですが、そこでお子さんを相手に、いろいろなおもちゃなんかを売ると、結局このニュータウンに親と一緒に越してきて、それでニュータウンで小中学校で、高校、大学はどこか遠くに行ったり、お勤めも遠くにしていらっしゃる方が、子供を連れてお祭りに来るわけ。「あら、あなた、もしかしたら太郎さん」とか言う、「そうなのです」とかいう。「お子さん、こんな大きくなっちゃったの」とかという所で会話があるのですが、結局皆さんが、今は離れているけれども、そういうお祭りや何かには、また白井に戻って、ニュータウンの二世帯、三世帯の方がまたお祭りに戻ってくるという、そういう傾向が非常に濃いのです。だから、そういうものをこれから生かしていけるんじゃないかなと思うのです。

それで産業振興ネットワークの工業、商業、農業という三つの業を分類してやっているのですけれども、先ほどからお話がありますように、非常に農業が今衰退しているように見えるのですけれども、やっぱり農業を続けていらっしゃる方がたくさんいますし。

それで私が考えているのは、白井に小中学校の義務教育中のお子さんが、大体6,000人ぐらい、まだいるのです。その方たちに給食を提供しています。その給食の材料に、なるべく白井産のものを食べさせてもらえないかと思っているのです。お米なんかは、白井産のものがほとんど行きわたっているのですが、ほかのものと、どうしても白井産だけでは間に合わないの、ほかのということが多いのですが、せめて野菜農家、梨もそうですけれども、野菜をつくっている方々に、そういう給食で恒常的に供給が求められるという、需要があるというのを実際うまく回してもらいたいなと思っているのですけれども、そういうことがそういうコーディネートをする方がいらっしゃらないという、その辺はもっと農業の方にそういうところでやっていただけないかと思うのですが、きょうは残念ながら農業関係の方が少なくて、余りおいでになっていないので、そのお話ができたならよかったなとか思ったのですけれども、そうすることを考えていますし、それから小中学校をここで過ごした方は、やっぱり懐かしくて帰ってきている。そ

ういうことがありますから、全部が皆さんどこかに行っちゃっているわけではないので、まだ希望はあると、こう思っています。

○委員 ただ愛着を持っているのと、そこに住みたいと思うのというのは、全く別の話だと思うのです。

○永瀬都市経済常任委員会委員 でも、青年は荒野を目指すと言いますから、若いときはどこか遠くに行ってみたいと思いますから。

○委員 永瀬さんは、ご出身はどちらでしょうか。

○永瀬都市経済常任委員会委員 私は関東です。

○委員 でも、そこには帰ってない。愛着はあっても帰って、そこには住んでいないのですね。

○永瀬都市経済常任委員会委員 残念ながら、帰る理由がなかったから、たまたま白井に流れ着いたということです。

○委員 たまたま白井とって、またそこは愛着は持っていますが、たまたま別のどこかに住んでしまうことが多いんじゃないかと思うのです。やっぱり選ばれる理由というか、選びたくなる理由があるほうが帰ってきやすいかなど。いつも何か、ここが問題だ、あそこが問題だと話すのですけれども、視点がこちらからの視点で、住む側の視点ではないというか、選ぶ側の視点じゃないのかなと思って。

○和田都市経済常任委員会委員 私はどっちかといったら、ニュータウン12歳のころに来まして、ちょうど都心の開通をしていた時期で、正直言いますと、愛着というとニュータウンに来たときには何もなくて、映画もない、あれもないという形で、中学校時代なのですけれども、自転車で柏まで片道2時間かけて映画を見ていて、笑うかもしれないのですけれども、それぐらいしかなかったという。大人料金になるじゃないですか。それは話はずれるのですけれども、本当にどこかの歌だと、あれもねえ、これもねえという歌、出ていきたいというような気持ちもわからないでもなかった。ただ、私自身は、海外にも留学を行ったりだとか、そういう意味では戻ってきた、これは私個人の意見として聞いてもらいたいのですけれども、特に2005年から大きく変わったなというのがあります。

なぜかと言いましたら、ナッシー号の循環、いわゆる半径5キロ以内に映画もできた、確かに税務署だとか、そういったところは遠いのですけれども、日常生活でやっているものが非常に大きくなってきた。さらに私の代になってきましたら、二択になると思うのです。親が高齢化する中で、年末年始か盆暮れには、何気にここら辺のファミレスとかがいっぱいになりますけれども、そういったときに、大学を出てそのまま都心に、戻らずに家を買ってしまったとかという中でありましたら、今度は親が高齢化する中、二択になると思うのです。親のもとに戻るか、それとも親を招き入れるかといったところでやっていくとした場合には、今後戻ってきたいという人たちも、こんなに便利にな

ったのだったら、これはというのが。20年前は物すごい、ほかの人が話しても、柏まで自転車で大体2時間かけて行ったなんて言っても大げさに聞こえるかもしれないのですが、本当にやった中の話で、多分僕らが中学校時代のころって、今のニュータウンに住んでいる人たちにとっては全然できないのだろうなど。そういう意味では、便利さといったところでは魅力があったのだなといったところで、そういう意味では、中学校時代とか来京心というのでは、なかなかあったのですけれども、やっぱり親元に戻ってきたい、年老いた親がいたらといったところはありません、そういう中で戻って見たら、結構いい町だなといったところもあったというところがあります。とりとめのない話で申しわけございません。

○福井都市経済常任委員会副委員長　とりとめのない話も長い話は、時間がございませんので。

○石田都市経済常任委員会委員　自分は、この町に生まれて育って、約六十数年間ここにいるのですけれども、恐らくこの中で皆さん、白井に生まれてずっといるという方はいますか。1人ぐらいですね。

○委員　私は、生まれはここじゃないけれども、嫁に来ましたので、ずっとそれから。

○石田都市経済常任委員会委員　昔は、それこそ今、話がありましたけれども、お店といえば船橋市とか、あるいは柏市とか、そういったところへ出向かないと、デパートなり、物産展なりといったものが、余り大きなところはなかったのです。

ところがここ数年は、隣の印西市にあるというような状況で、かなり環境が自分たちの子供のときと比べると大きく変わってきているというのが現状にあると思うのです。先ほどもありましたけれども、工業団地を発展させるためには、そういったインフラが必要だというようなお話もありましたけれども、やはり住むためにもそういった環境を整えていくというのが、非常に大きな要素になっていくのじゃないかなというような感じはします。それで、昔から思えば非常に便利になったなど。

ただ、その反面、最近では地元に戻りますと、自治会のほうにも入らないとか、あるいは隣近所の関係が、昔から比べるとかなり疎遠になってきていると。例えば最近、葬式、結婚式、昔はすぐわかったのですが、最近では、隣近所の葬式でも意外とわかりにくいというのが非常に現状にあります、昔の田舎と今の田舎とは大きく様変わりをしてきているのが現状なんじゃないかなというように思います。

そういったところから、先ほど、地元に住まないで、よそへどんどん出ていくという話もありましたけれども、私は長男でしたので、家系を継がなきゃいけない、親を見なきゃいけないというのが心の中に、子供のころから、そう言われて育っていましたので、おまえがしっかりしなきゃだめだよというようなことで育てられましたので、自然とそういう育ち方をしたのですが、やはり次男、三男、次女、三女というのは、あなたたちは自分で職を見つけて、ちゃんと生活をできるようにしなきゃしょうがないよというよ

うなことを当然言われながら育っていますので、それなりの職を見つけるためには、地元にはそういったものがないというのもあったり、そういうのがありますので、外へ出ていったのかなというように自分なりには思います。参考までに。

○委員 それなのですけれども、次男、三男の方が出ていかずに、例えば商業、工業で、こんな職業があるよとか、こんなものがあるよって、今、されているとおっしゃっていましたが、そういうPRも足りなかったのかなとか。もっとこれから積極的にやったほうが、例えば何か子供の希望って曖昧じゃないですか。こんなものをつくって、いますと言われても、わからない。でも、英語を使う仕事ですと言われると、あ、すてきとかというパターンだったりするじゃないですか。そういうもっと詳しくというよりは、子供にわかりやすく、こんな仕事があります、こんな仕事がありますというのをもうちょっとPRしていくと、就職の選択肢にもなるかなと思います。

○委員 ぜひ定着するように。

○委員 最初に梨の話の振っちゃったので、何か炎上しちゃったので。先程言われたように、都市計画ってすごく重要なのです。インフラを整備しなければ、工業団地だって活性化するのも限界があるだろうし、この町の観光といっても、やはり都市計画がしっかりしていないと、バスをとめるターミナル一つないと、そういった町をどういうふうにするかという構想がしっかり立てられて、確かに個々のことをやると地元の人が、俺らの土地を減らすのか、削るのか、道路のために提供しなきゃならないのか、祖先からの土地を提供するのも、ちょっとなというのがあるわけです。けども、そういう事情を言っていると、一向に進まない。

ですから、まずは基本計画をしっかり書いて、あとは個々の人たちの事情に合わせて、ゆっくりと50年、100年かけてでも、この町をよくするんだというマスタープランがないと、駄目なんじゃないかなと。ぜひそれはつくっていただきたい、それが一つ。

それから人が集まらない、人が住みたいと思わない、これは鶏が先か卵が先かじゃないけれども、ここに一流企業が来て、一流企業が看板を掲げて人を募集すれば、みんな来るし、すてきな店ができて、実は私、今週の火曜日までドバイにいたのです、1週間。すごいです、人種のるつぼです。世界一のものがいっぱいある。だから世界中から人が集まって、物すごいです。しかも、みんなお金持ちばかり。1泊6万7,000円の部屋に1週間。さらにすごいのは、七つ星のホテルがつくられている。その七つ星のホテルの一部屋が350万だって。すごいでしょ。それでも人がわんさか来て、そのホテルの前にはロールスロイスがとまって、すばらしい人がおりにくるのです。それを僕は写真を撮っている。全然田舎者なのだけれども。しかし笑っているけれども、それが現実です。ですから、鶏が先か卵が先かということもあるけれども、とにかく頑張っただけでもよくなれば、みんな来る。

それから、もう一つ難しいのは、余り余計なことを言うと申しわけないけれども、梨

ブレンダーをやめるときに、私申し上げたのです、梨業組合の組合長に。これ梨ジュースをつくる設備とすれば、コストもかからないし、いいんじゃないですかと。そしたら、あんた、そんなことを言うけれども、できないのだから、これでおしまい。そう、難しいと思うよ、何が難しいのですか。それはもちろんビタミンCとかビタミンEを入れれば酸化防止できるのです。実際にできているのだから、よその会社で、よその地区でできていることは、できないわけではないのです。設備だってあったのです。あの設備、梨ジュースをつくる設備として使えば、十分使えたはずですよ。それを申し上げたら、一蹴された。残念だなと時々思います。仕方がない。

やはり、そういう信頼関係というか、こういうところがそういう梨関連の話が出たときに、梨ジュースやろうよと、そしたらそれを受けて、じゃあ一緒になってやって教えてよと、あるいはどこに行ったらいいの、農業試験場とか、そういうところの力を借りてやればできると思う。だからできないことはない。だから何かいい話が出たら、都市計画の話も出ました、物すごく重要だと思うのです。そういったことも都市計画の青図は、どこで誰が、どうやってつくるかということを中心に話し合っ、テーブルに乗せていったらいいんじゃないかなと。産業振興課が中心になって、あるいは都市計の方にも入っていただいて、そういったことをこの場でもって都市計の方に、どうですかって言えるような会になれば、実効性は上がると思うのです。

○委員 都市計画に関してなのですが、当行の白井支店に関して言いますと、実は融資の取引をしていただいている会社さんが、白井の工業団地にはもちろん多くの企業さんがあるのですけれども、それ以外で、我々富士のほうに店舗を構えているのですけれども、こちらの富士とか根とか、こちらの市役所があるあたりというのは、事業所があんまりないのです。それで当店に関して言いますと、融資の取引している金額の上位10社に関していうと、実は白井市に本社がある企業さんが1社もなく、近隣の鎌ヶ谷市であったり、船橋市であったり、そちらに本社がある会社さんと取引させていただいているというのが現状なのです。

それで、何でかなというところを考えると、新たな工場とかを建てたいという、本社を移転したいというニーズはあるのですけれども、白井の工業団地のほうは現状あきがなく、行きたくてもなかなか行けないというところもありますし、また白井市内のどこかに建物を建てようというときも、市街化調整区域が非常に多くて規制もある関係で、なかなか新しいそういった設備も建てられないというところが、新しい企業が来れない要因になるんじゃないかなというふうに思います。

また、先ほどの話で、農業をやられている方で、農業のほうですと天候に左右されて、売上がその年によって違う。それを安定的にするためには、副業で不動産事業とかやるというお話もあったのですけれども、当行でも地主さんとかに不動産の収益物件の建築ですとか、ご提案をさせていただくことがよくあるのですけれども、実際に白井市内で

すと、アパートを建てられる場所が非常に限られていまして、どうしても工場の近隣のところに建てざるを得ない場合もありますし、もしくは東京都内の物件を探して、逆に白井市内の土地を売却して、買いかえで都内のほうで不動産を買うというような事例もよくあるのです。

ですので、先ほど来、都市計画というところのお話が出ていますけれども、やはり白井市を活性化させるためには、そういった都市計画の部分が青写真をしっかり描いて、それで企業なり人口をふやすような取り組みを始めていかないと、人口もふえないですし、企業もなかなか来てくれなくて、最終的には税収のほうに結びついていかないとというふうに思っております、その辺をしっかりと基本構想も含めて考えていく必要があるんじゃないかというふうに思います。

○福井都市経済常任委員会副委員長 16号沿線と、その北千葉道路ですか、沿線が今度開発可能な区域になっていますので、その辺をすごく期待して、16号沿線のほうへ企業さんが出てきてくれるというのが、都市計画のほうでも考えていますし、議会もそれを通して優遇措置とかもしましたけれども、まさにおっしゃるとおりで、白井市に人を集めて税収をどう図るかということが大きな課題だなというふうに思っています。

○委員 すみません、もう1点、よろしいですか。梨農家さんとか農業経営者の後継者不足ですか問題になっていますけれども、去年の当行の取り組みとして、千葉の市原市に、当行のほうで14.5%出資して、「フレッシュファームちば」という農業法人を設立いたしました。これは市原市内の後継者不足であったり、あとは耕作放棄地ですか、そういった拡大が懸念されている状況の中で、その運営法人を設立して地元の農家さんにお米づくりの指導をしていただいて、それで昨年お米をつくらせていただきまして、それで無事収穫できたのですけれども、そういった形で実際に後継者さんが育ってくれたり、あとは農家さんでやってくればいいのですけれども、なかなかそういう状況もない場合もありますので、そういった形で農業法人を設立して、ほかのそういった法人に土地を貸して指導もしていただいて、それでそういった収益をもらうという方法もありますし、あとは、その地域でお米をつくってブランド化できるという方法もありますので、そういったところも銀行と連携してやっていくのが一つの方法としてございますので、ご紹介をさせていただきます。

○福井都市経済常任委員会副委員長 そういう情報がすごく入って、そのネットワークのよさが、この会議でのよさが、そういう情報がきちんと集まって、それを行政側で生かすことができるように仕組みがうまくつくられていくことが大事だなというふうに聞いていて思いました。本当にありがとうございます。今後、産業振興ネットワークの大事さというのがわかりますけれども。

○委員 前回も16号沿いの都市計画について話が出て、今回もいろいろ都市計画という話も出ていたのですけれども、私、まちづくり審議会のほうにも任命されて、先日都市

計画課でレクチャーを受けてきたのですけれども、その話をしたら、都市計画課の方はここに参加したいとおっしゃっておられたので、事務局の方。もしよろしければ都市計画課の方、時間があれば来てくれるように取り計らっていただけると、もっと話がいろいろ発展するんじゃないかなと思います。お願いします。

○福井都市経済常任委員会副委員長 時間が、あれですよ、いっぱい。半までよろしいのですか。

○議会事務局 3時までです。

○福井副委員長 3時までということでした。時間が大分過ぎましたので、せっかくですけれども、話がだんだん盛り上がってきて、話したいことがいっぱい出てきたのですが、最後にもしよしかつたら委員長さんのほうから一言いただいて、おしまいにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○森吉委員長 皆さん、白井のことを思っているいろいろなアイデアが出て、本当に私は聞いていて驚いたのですけれども、私は大学にいますので、若い学生と普段はつき合っているわけですけれども、一般的に、昔に比べて夢がないとか、何をしたいのかわからない、なぜ機械に来たのですかと言ったら、就職がいいからと。これをやりたいとか、そういうのが余り一般にはないのです。

でも、見ていると、日本人が活躍、スポーツでもいろいろな分野でも活躍している人はふえているので、余り若い人はということをやっちゃいけないのだなと思うのですけれども。そういう誰しも、ただ何かいつかはやりたいことが出てくると思うので、そういうところを生かす場が、世界で白井にしかないような、そこに人を集める、海外からでも人が集まる、そういう場ができれば盛り上がるのかなと思っているのですけれども、これは皆さん、ここ白井以外の自治体も当然考えていることなので非常に難しいことだと思いますが、こうやって皆さんからのアイデアを集めて、それをそれから実際にどのように生かしていくかというのが、市役所さんのすごくサポートというか企画力というのも重要であるなど。議員さんの力も必要だろうなと思いますので、引き続き連携していただければと思っています。

○福井都市経済常任委員会副委員長 時間が過ぎてしまったので、これでおしまいにしたいと思いますが、きょうはネットワークの皆さん、またそれぞれの皆さんのお立場からのご意見をいただいて、私たちも大変勉強になりました。本当にありがとうございました。

～休憩～

○森吉委員長 すごく前半盛り上がって、まだまだ続けたかったのですが、こちらもありますので、時間もありますので、30分ぐらいで終わればと思います。

前回の会議では、白井市の商業における現状、それから公益的な施設誘導地区における優遇制度創設に関する新条例制定、さらに、しろい梨などの農産品のPR状況を議論していただきました。

今回は、今、常任委員会との意見交換を行いましたことから、白井市の産業振興、そしてテクノロジーの利活用の可能性について、議題として取り扱ってまいりたいと思います。

それでは、議題を進めていきたいと思います。議題の1番目は、白井市の産業振興テクノロジーの利活用の可能性について、事務局からまずご説明をお願いいたします。

○事務局 事務局から、本題について説明していきたいと思います。

この議題が、第3期産業振興ネットワーク会議の最後になってしまいますので、最後は産業振興ネットワークらしく、旬の話題というか、今、経済界で起こっているようなことを検討していきながら、白井に何か参考になることはないのかなと、何か考えていければということで、このような議題にさせていただきました。

では、なぜ白井市の産業振興にテクノロジーかということから入っていきます。今、直接的には関係ないかもしれませんが、世界情勢では、今一般的には、第4次産業革命とかIT革命、IoT、ICT、AIとかを使いました技術革新が起こっていると言われていています。なおかつ、米中貿易戦争であったりとか、GAFAXBATのIT系企業の席卷とか、世界経済への影響力がすごく及ぼしていて、グローバルに農業、商業、工業というのをあらゆる産業に参入していて、地域、市内産業に及ぼす影響がないか、また利活用できることはないかということのを考察していければと思います。

次に、第4次産業革命とか技術革新、シェアリングエコノミーなどと言われていますが、皆さんご承知の方は十分ご承知の方もいるかと思いますが、私も専門家ではなくて申しわけないですが、ニュースとか世間の話題、トピックスを拾って資料とさせていただいているので、説明としては不十分なところがあるかと思いますが、そこはご了承ください。

第4次産業革命、4IRと言われてはいますが、全てのものがインターネットやIoT、AIにつながって革新を起こすことが、今、社会経済には起こっています。また、シェアリングエコノミーということで考えると、モノ、サービス、場所など、多くの人と共有・交換して、そうしたことを利用した経済とか社会的仕組みの変化が今起こっています。それは我々の生活の中にも入ってきています。

例えば、メルカリだったり、自転車のシェアリングであったり、民泊だったり、スペースマーケット等。スペースマーケットは、例えば自分の土地だとか住宅の部屋であるとか公共用地、ホテルの空き用地とかを活用してもらって、それを使いたい人に提供するサービスが、スペースマーケットで展開されています。

先ほど、GAFAXBATと申しましたのも、皆さん、知っている方は知っているか

と思いますけれども、G o o g l e、A p p l e、F a c e b o o k、A m a z o nといった頭文字がG A F Aと呼ばれていて、4大テック、米国プラットフォーマーと言われておりますけれども、こうした企業、例えばA m a z o nなんかは、それこそ紙おむつやラーメンといったものから家具やロケットまで、全てあらゆるものを吸収してビジネスに取り入れています。もちろん農産物もそうですし、直接今、農家やそういったところにも入って行って取引して、個人の方は自分のところに注文して宅配されるということが起こっていて、あらゆる産業を飲み込もうとしていると言われております。

それに対して、B A Tというのは、中華系のB a i d u、A l i b a b a、T e n c e n tといった中華系の企業も世界をかなり今、凌駕していて、あらゆる産業をそういう部分で飲み込もうという動きがあるというような状況となっています。

国内情勢に目を向けますと、アベノミクスとか古いかもしれませんが、経済効果、第4次産業革命、I T革命、技術革新による各産業の効率化、世界経済の株価といったところが騒がれておりますけれども、そうはいつても、企業収益は過去最大であるけれども、中小企業や小規模製造事業者は、まだまだ低迷しているところがあります。経常利益は過去最高だったけれども、実感がない、賃金上昇の実感がないとか、中でも中小企業事業者の人手不足であるとか、後継者不足は深刻ということが言われております。

こうした情勢を国のほうでは打開するために、生産性革命ということを実施をしておりますして、生産性向上特別措置法をことしの6月に、平成30年までに施行しまして、自治体もこれについて中小企業の設備投資を支援していこうというところで、こうした技術的なものを取り入れる後押しをする制度を自治体でもつくって支援できるという法律を施行しております。

こういった情勢の中、話題となっている先端的テクノロジーの活用や研究、理解、可能性を意見交換というのをすることにより、今後の農商工連携、新産業プロデュース、地域の産業振興のヒントにしていければと思っております。

次は、農業×テクノロジーということで、今の市内の農業者数を見ていただきたいのですが、これもことし初めにお示ししました資料と同じものにはなりますが、これは農林水産省からのデータで、国内販売農家数が、平成12年233万戸から120万戸、ここ十五、六年で半分ぐらいに減ってきてしまっているという状況、それと白井市の農家数はどうであるかという、昭和62年で900戸あった農家戸数が、今は平成27年ですと600戸まで落ちていってしまっていると。白井市の専業農家数はどうだろうかというところで、昭和62年290戸あったものが、平成27年には147、約半分ぐらいまで落ちていきますよという状況。これはすごく悪いということで、後継者等減ってきてしまっていると。

視点を変えまして、今、農林水産省のほうではスマート農業というものを推奨しています。これはロボット技術やI C T等の先端技術を活用して、超省力化や高品質生産等

を可能にする新たな農業の定義と実践し、これを国のほうを実証させようとしております。

例えば、農業用ロボットの自動操縦化であったり、収穫作業をロボットによる活用、カメラやセンサーを搭載したロボットによる分析、農地現状把握、農薬散布、ドローンの活用であったりビッグデータの活用、こうしたことを使いながら実践し、農業の生産性を上げていこうということを実証しようとしております。

海外の先進例には、これに関してはオランダが国として推奨していて、先端的テクノロジーを使ってICT農業の実践をしているところになっております。

スマート農業のメリットとしまして、高齢化している農家の例えば作業軽減、人手不足をロボット、テクノロジーでカバー、農作業の効率化、効率化による生産量・規模の拡大ということを実践する一つのツールになりまして、労働生産性向上と、きつい農業というイメージを払拭し、ICTを活用した農業活性化により産業障壁を下げ、新規就農者や若者の参入を狙うということをしようとしております。

そうはいっても、なかなかテクノロジーの活用といっても、なかなか我々みたいな6万人規模の都市で小規模農家がというところでは、導入は実際難しいかとは思いますが、例えばですけれども、老朽化した選果場組合などの施設に、各生産者みずから農作業の傍ら、施設で選別ということを行っている部分を例えばロボット化をしてみるとかで、大分作業が効率化されるのではないかということも考えられるのですけれども、ただ、これについては、施設管理者JAであったり、組合員の同意とか協議、またコストもすごくかかるので、なかなか現実的には難しいのかなと思っております。

あと、個別農家さんについては、先端機械による先端的機械の活用・導入による効率化により、農地の監視、調査などを受ける、カメラ、センサー、ドローンなどを使って取り入れていくと、作業を効率化できる部分があるのかなと思われまます。

そうはいっても、梨農家が多数を占める白井市としては、ほとんどの農家さんが手作業でやるものが多いということで、なかなかこうした先端技術を取り入れてやるのは、これはまだなかなか難しいのかなと。あくまでもこんなことが考えられるのではないかと資料としてみました。

それと、昨年もちよっとお話ししたのですけれども、しろいの梨のポータルサイトという、ITということです。こうしたツールを使って、白井産の梨を配信しておりまして、生産者の方と連携しながらつくっていくポータルサイトになりまして、ここにホームページから入っていただくと、例えばこのように各生産者の直売所のマップが出されて、個々の直売所、気になるところをクリックしていくと、このように生産者の顔であったり、そこの直売所の店舗の風景とかというものが出てきまして、各直売所がどのようなところなのかということを見ることが出来ます。こうしたところが、今現在ウェブという形を使って、一つ取り組みとしてはやっている部分にはなっております。

この話とは関係ないのですが、先日農政班の方でトマト栽培を休耕地を使ってやっている事例等の写真を、こんな遊休農地があるのを見ていただければと思います。これは神々廻の市民プールのあたりの遊休農地をこのようにして、先ほども意見交換会でこの話が出ていましたけれども、活用できないかということも一つ課題になっているということだと思えます。

次に、商業×テクノロジーといったことで、商業者はどうなっているのだろうというところで、これも昨年、産業振興における社会的課題ということテーマにさせていただいて、ちらっとお話をしましたけれども、現在、全国の休廃業・解散件数は、このように物すごくふえているのだと。平成19年が2万1,000件であったものが、平成28年は2万9,000件、商業、工業者、合わせて事業者がどんどん休廃業しているのだよという状況になっております。

これは、休廃業・解散した農業の平均年齢が、60代の方が8割で、高齢化による事業承継が課題だよと、東京商工リサーチの調べで数値が示されております。課題もこのような課題として、ほぼ結論づけられております。商業的なデータは、白井市なかなかつかみにくいところがあるので、参考までに商工会会員推移ということで、やはり平成26年から平成30年で3割以上減っているのですけれども。

商業施設の現状ですけれども、これも皆さん見てのとおり、こんな感じかなというのは十分思い当たるかと思うのですが、郊外型のショッピングモールが堅調な伸びであるけれども、一方でデパートや百貨店などが業績不振、撤退、業界の市場規模はバブル期をピークに縮小がとまらずということで、どんどん減っています。これは日銀のレポートで示されたコメントになっております。

コンビニは地域格差があるものの、質、量とも充実させておりまして、地域に貢献している事業者ということで、それなりに顧客を獲得し業績を拡大しているのではなかろうかと思えます。一方で、地元商店会や商業者はどうかというと、なかなか人手不足、後継者不足で、かなり減少傾向、ここもやはり少子化高齢化も大きいのかなと思われま。

その一方で、Eコマースということで、Amazon、楽天、ZOZO等、皆さん、ネットでお米とかそういったものを簡単に買える時代ですので、こういったによって地元商店会も多少の打撃を受けているのかなと思われま。

商業施設の課題、今、大体申したことなののですが、どこも業界的に人手不足になっていると。あとはEコマース、特にAmazonや、そうしたプラットフォーム的な事業者がどんどん入ってきて、そこがあらゆる販売網、流通を席卷していて、そちらのほうに商業が飲み込まれているのかなというのが今の時代の動きかなと思われま。それと、ライフスタイルの変化、社会環境の変化もあるのかと思われま。

市内商業者のテクノロジーの活用ということで考えてみたのですが、これに関しては、私もなかなか思い当たらずで、そうはいつでも、地元商店会、小規模事業者は、地域

とのつながりがすごく大きい。そういった意味でこれから高齢化してくる時代においては、すごく役割としては重要なのかなと思っております。それにあわせて、例えばネット販売事業者と連携して、そうしたところへ卸したりとか、ウェブサイトなんかを使ってでもPRしていくのも一つしかないのかなと、地道な部分を積み上げていくしかないのかなと思います。このほかに、こうしたほうがいい、ああしたほうがいいという意見があれば、何かヒントになることがあればなと思います。

工業×テクノロジーということで、工業事業者の実態はどうかというと、やはりこれ先ほどのデータと同じです。休廃業数がふえてきているよと。これは少子高齢化や解散した企業の年齢が、最も高齢化しているというデータです。

白井市にある事業者数はどうかというと、これは工業統計調査からなのですが、実際は市内ではこれ以上かなりあるのですが、アンケート回収できているのがこの程度の数というところで、参考までにというところで、これだけ見ても減少しているよというところではあります。

2025年危機ということが言われていまして、日本の企業の3社に1社、127万社は廃業の危機、650万人、GDP22兆円が消失するということで、昨年、経済産業省が発表しています。

そのうち問題は、廃業する企業の半分は黒字経営の状況で、黒字経営のまま、後継者がいないまま残念ながら廃業する事業者が多いということがすごく問題になっている。この背景には、M&Aとか後継者対策、事業継承をいかにスムーズにやるかということが重要ということ政府の課題であり、地域の課題となっております。あと、70歳以上の団塊世代の大量引退の時代、人がどんどん大量に引退していきます。企業もそうですし、我々役所もそうですし、どこもそういうことが起こってくるので、ものすごく人材不足が起こってきているということです。

そこで、先ほどもちょっとお話しましたが、生産性の向上ということで、テクノロジー、IoTやビッグデータ、人工知能などを使って生産性を上げて、これから活性化させていく上では、持続的経営をしていこうという取り組みで、政府のほうは力を入れております。

これは30年まで政府がリリースしたことであつたのですけれども、これに対して白井市の工業団地の現状、課題は何かというと、これは28年度に白井工業団地PR事業となりました。そのときに日経さんにご協力いただいてアンケート調査を行ったのですけれども、そこでの経営課題が、営業力の強化、設備の老朽化、社員の高齢化ということが、1、2、3で一番の課題だよというデータが出ております。これは設備の老朽化であつたり、設備投資の経営課題ではなかろうかということが、ほぼ結論ではなかろうかと思っております。

生産性向上特別措置法に基づく中小企業支援ということで、白井市もあわせて導入促

進計画をつくって、中小企業の設備投資支援ということを行いまして、企業さんの方で新設備を入れるに当たり、ものづくり補助金を国に申請するに当たり、創業支援という形で制度を整えております。これは3年間、4年間、5年間の事業計画を企業につくってもらって、労働生産性が上がるものであれば市のほうで認定して、その認定があれば企業のほうで、ものづくり補助金を申請したときに補助採択要件の加点につながっていくということで、産官連携の取り組みとなっております。また、3年間認定を受けた企業の導入した新設備については、3年間償却資産を市でもゼロにして、設備投資を支援して企業に持続的経営の支援をもって企業の収益向上につながれば、市のほうにもその分の設備投資とか償却資産であったり、収益拡大すれば、法人市民税が入ってくるということで、市でも支援しているところであります。

先端設備の導入例なのですけれども、今、白井市で実績7件。この7件のうち内訳がどのようなものであったかということ、金属系で言えば、スクラップカッターであったり、ベルトコンベア、機械系であれば、スピンドル複合旋盤やプレス機、自動車系であれば、ブレーキやツールシステムなどを導入して、設備投資を回った企業が7社、今時点でありました。このほかに、テクノロジーを使って生かせるアイデア等はないかということ何か見いだしていければと思っております。何かしらいただければと思っております。

それと、最後になりますので、産業振興としまして、ことしの経済的課題、トピックスとして、米中貿易戦争、地政学、ブレグジット、イギリスの合意なきEU離脱、これによって日本企業、かなりイギリスに自動車産業など進出しているので、そうしたことで傘下にある中小企業事業者も多少の影響が出てくるのじやなかろうかということで、経済界では心配されております。

あとは、G20大阪サミットであるとか参議院選挙、プレミアム商品券、消費税増税、SDGs、これすみません、これは私も勉強不足で全然わからないのですけれども、今、2015年に国連で採択された持続的開発目標、Sustainable Development Goalsと言われているのですけれども、例えば社会貢献事業、飢餓、貧困、企業の生産性、雇用の拡大、生活向上とか、企業、事業者、人、個人、自治体、行政がそれぞれ開発に成果目標をつくって取り組んでいこう、そうしたことで地域経済の規模を増していこうということで、2015年に国連に採択された制度になっておりまして、国もこれを取り入れて、大手企業ではかなりSDGsの取り組みが行われております。こういったこともこれから話題になってくるのかなと思っております。

今、世界、経済、社会はハイスピードに変革期にある中で、農業、商業、工業、地域産業における影響とか、活用できることがないかということを考えていければと思います。

それと、産業振興ネットワークとして、経済的課題を理解、把握し、第3期ネットワーク委員の最後の意見交換としまして、今後の産業振興、新産業プロデュース、6次産

業などの次期テーマにつなげていければと思います。すみません、長々と。以上となります。

○森吉委員長 ありがとうございます。今のスライドにあったように、このことを産業振興ネットワークとして意見を伺いたいということなのですが、非常に多岐にわたって、しかも難しい内容だと思いますが。それ以外に今回、この期の最後ということで、今後の展開などについてご意見いただいてもよいかと思います。

なお、録音の都合で、ご意見がある場合は、まず、挙手いただきまして、こちらで指名させていただきますので、その際にご意見か、ご質問なのかを表明していただいて、お話しいただければと思います。

それでは皆さん、ご意見、ご質問等ございましたら、お願いいたします。

○委員 今、せっかくなつくたものですから、これを聞くと、生産性向上特別措置法に基づく中小企業の設備投資支援というのをやりましたよと、なぜやるかというのの流れの説明の一部のような感じを受けました。それで、せっかく取り組んだので、ぜひ隣の鎌ヶ谷市、印西市と比べて、両市ともやっていますか、これ。

○事務局 ほぼ取り入れられていると。

○委員 やっていると思う。せっかく産業振興課としても取り組んだのですから、ぜひ他市はどの程度こういうものが結果として、3年間ですか、だったかを公表してほしいなど。せっくならば、収支は他市、隣の市と比べると、設備の老朽化に対して、非常に積極的に市のこういう後押しもあって、あったよという結果が残るようになればなど思いましたので、ぜひお願いしたいと思います。

それから、今、幾つか出てきた中で、シェアリングエコノミーなんかは何か取り組みが情報としてありますか。あるいは3点ほどだと、2番目は都市計画との連携、用途地域の変更、この辺のところ、3番目としては人手不足の対策、この辺のところも3点ほど次年度に向けて取り組む内容についても、皆さんと意見を出し合って決めておいたらいんじゃないかと思いました。

○森吉委員長 ありがとうございます。今のご質問で、事務局のほうでご回答できることはありますか。

○事務局 シェアリングエコノミーにつきましては、実際、市内の事業者でやっているところがあるかということ、そうした情報はないのですけれども、ただ、今後市内で考えられることとしては、すごくこれから東京 2020 に向けてオリンピックが行われる中で、民泊がもしかしたら広がってくるのかなというところで、民泊法がことし施行されて、それがこれからいろいろな課題、問題はあろうかと思うのですけれども、事業者を把握しているわけではないのですが、大手サイトなどを介して、白井市でも事例としては何人か出てくるかなというふうに。

○委員 ちょっと聞き取れなかったのですけれども、民泊に関して。

○事務局 民泊新法ですね。これが国のほうで施行されているので、これについては、自治会やマンション各管理組合とか、そうしたところで規定を定めて規制をすることはできるのですが、市内でも民泊をやりたいというところが入ってくることは多少考えられるので、そういったところで、シェアリングエコノミーの部分としては市のほうでも多少関係は出てくるのかなと。

○委員 今のところ、民泊、自転車、車等でシェアリング等の事例というのは、白井市ではないですか。

○事務局 今のところはないです。個人では事業化してやっている方もいるのかもしれませんが。

○委員 駅前なんかでも見かけないですね。新鎌ヶ谷は今、タイムズさんがシェアリングを始めています。駅前の駐車場を貸す。

○事務局 自転車のシェアリングに関しては、千葉市が結構積極的にやっていて、海浜幕張の駅にイオンと連携していて、千葉市がかなり県内では先例、自転車のシェアリングに関しては、先例都市だとは言われています。多分、白井市では、そういった取り組み、場所とか事業者の規制とかということもあろうかと思うので、そうしたことは、まだないです。

○委員 振興課としては、取り組んでいきたい内容でしょうか。

○事務局 産業振興課としては、その前にやらなきゃいけないことが多々あるので、まずそうした需要が出てくれば、多少考えなければいけないなというのは思います。

○委員 わかりました。

○森吉委員長 いろいろ次期への課題とか言っていたので、また検討していただいて、ほかのところの調査とかに生かしていければと思います。

○委員 シェアリングエコノミーに関してなのですが、私、さっきまで白井の産業が、工業がと話していたのですが、白井の一番の魅力って割と何もなくて、普通の人が普通に暮らしていることだって、かねてから主張しているのですが、その普通の暮らしに割と魅力を感じる方というのは多いと思うのです。例えば、さっきおっしゃっていた民泊にしる、農家で何か体験するにしる、そういうので人は呼べると思うのですが、その時点で足がない。なので、シェアリングサイクルで民泊があったとして、そういうのを例えば市でホームページをつくったり、SNSで拡散したりとかしてバックアップして、割と今あるものを生かして人を呼ぶということが可能じゃないかなと私は考えています。

あと、全然また違う商業のほうなのですが、商店街が衰退しているというのは以前から言われていると思うのですが、私からすると、地元の小さい商店ってすごく入りづらいのです。入ったら何か買わなきゃいけないとかと思ってしまうところがあって、でも入って見ないと何が売っているかわからない。でも、入ったら買わなきゃ

いけないので、どうしても入れないというのがあるのですけれども、そういうのを例えば商店街をまとめて、このお店にはこんなものが売っていますとか、そういうのが一覧で見られたり、例えばネットでこれと、これと、これって注文したら、どこか代表のお店に全部まとめておいておいてくれるようなサービスとかがあれば、商店街も利用しやすくなるのかなと思いました。以上です。

○森吉委員長 ありがとうございます。

○委員 質問なのですけれども、先ほど、しろいの梨ポータルサイトの名前がありましたね。あれはテストなのですか、それともことしもやるのですか。

○事務局 既に配信されています。

上委員 今も見られる。

○事務局 実証されていますので、ぜひ見てみてください。ホームページからも、しろいの梨ってクリックしていただければ。

○委員 今、見ると、どういうあれが出ているのですか。要するに、まだ収穫時期じゃないですね。

○事務局 逐次、状況が出るとかではなくて、各生産者の紹介コーナーです。農家さんによっては、個別でサイトを持って、そうしているところもあるのですけれども、ただ数は少ないのです。

○委員 今でも見られるわけですね。

○事務局 はい、見られますので、何か結構これを見て注文される方もいるというふうにも聞いております。

○委員 前回、これについて質問したのですけれども、お答えをいただけたらと思っていましたけれども、どれぐらいの方が訪問されて、どれぐらいの反響があったかということに関しては、まだでしょうか。

○事務局 数については、生産者の方、反響を聞いたりとか聞き取りであるかもしれませんが、アンケートなりをとるかの必要がないと、我々もどう活用されているかというところは、なかなかまだ把握し切れない部分でして、これは時間をかけて、生産者が集まる場とかがあったときには、とっていききたいなと思っていたのですが、なかなかそういう機会がなくて、すみません、まだデータが上手く取れてないです。

○森吉委員長 ほかにご意見。

○委員 質問なのですけれども、農業系のテクノロジーの活用のほうで、いろいろ機械等の導入ということを書いてあるのですが、こういうものに対して、市としてのバックアップ体制とか、そういうものは考えられているのでしょうか。

○事務局 市としてのバックアップ体制ということなのですが、先ほども、少子高齢化で後継者問題とかというところが問題になっているというところがありまして、まず、農業面、農地とかでいうと、農業をまず集積していこうと、それから後継者の方を育て

ていくとか発掘していこうとかいう取り組みをやっているところです。やっているのですが、なかなか結びつかないという。

集積でいうと、例えば水田を大きく経営していく人とか、それとか他の地区では今、実施されているのですが、そういう集約組合という組合組織をつくって、大きな実施団体をもって、一つの機械、一つの一式の機械を大型の機械をそろえていくことによって、20ヘクタール、30ヘクタールの水田をその組合でやってしまおうじゃないかという取り組みがなされているところもあるのですが、なかなか圃場、水田の大きさがまだ大きく整備されていないとかという、いろいろな諸条件があったりするので、なかなか実績に結びついていないという現状はあるのですが、小さい集積という、うちの田んぼも後継者がいないから隣の人がやってよというような、そういったどんどん、どんどん隣の人が集積をして、少しずつ大きくしていくというような取り組みというようなことはやっております。そういったのは行政としてのバックアップ体制、または県のほうでは、中間管理機構という第三者機関がありまして、そういった機関の中で、誰か手放す人がいたら、それを全部集約して、誰かほかの方に第三者に、農業をやる方に紹介をしていくというような機関はございます。

○委員 ありがとうございます。

○森吉委員長 ほかにご意見ありますか。

○委員 シェアリングエコノミーのところなのですけれども、例としてメルカリとか自転車シェアというふうに言いますけれども、仮に自転車というところをピックアップして考えてみると、自転車という移動手段はとてもおもしろいと思うのですけれども、白井というところは、都心から約1時間ぐらいで来られるのです。そして、ここには自然もあるし、スポーツ施設もあります。そういったところを使えるような形にするには、まず車で来る。そうしたら車を置く場所が必要、モータープールがいるよねと、そしたら、モータープールに車を置いて、そこから自転車でシェアリングでその地区を散策する。自転車で回るには、どんなコースがあるのか、どこに何があるのかとか、そういった見所を用意しておかないと、ただやみくもに走っても、余り得られるものは少ないんじゃないかと。しかし、ここにこういう優れたものがある、ここにこういうようなところがあるよというストーリーをつくるのかして、そういうものをセットにすると動き出すんじゃないかなと。一つつくって、一つだけでも、じゃあ次って順序立てて物事を進めていけば、必ず動くと、そういうようなことを思います。

ですから、どこからやっていくか、そういうことを考えていけば、都市計画って都市計の人に申し上げたいけれども、都市計画がしっかりして、まず一つそこからやろうよと。モータープールは共有地とか遊んでいる地区、どこができるのかと、都市計の中でここを将来そういう形でやっていきましょうよと。最初の段階は小さなモータープールでいいじゃないですか。モータープールを用意して、小さな施設で例えばテニスコート

が何面ありますよと、ここまでは自転車で移動して、そして例えば泊まるとかだったら、民泊は、ここで民泊ができますよ、夕飯は、バーベキューはこういうところの施設でバーベキューもできますよというふうに順序立てて描いてあげれば、何か可能性が見えてくるような気がするのです。ただ単に言葉だけで持っていてもだめなので、具体的な、できるところからやると。うまくいったら糸をだんだん太い糸にかえていくと、規模も拡大すると。ベクトルがあってれば、きつうまくいくだろうと。仕事も細い糸から始めて太くしていくと、一気にいく場合もありますけれども、大資本が全部つくって、さあどうだといって旗を上げれば、みんながワーツと寄ってくるということはあるかと思うのですけれども、予算がないこの町でやることとしたら、小さなところから、できるところから始められたらどうかと。それには何があるのかということで、梨狩りもありますでしょうし、スポーツ施設もありますね、結構立派な。そういったところからできるものを使えるものをピックアップして、そこを具体的に、そんなことを思った次第です。

○森吉委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。

○委員 先ほど何か、バーベキューがあって民泊があってというのをおっしゃっていたのですけれども、前にもお話ししたことがあると思うのですけれども、白井の散策マップってありましたよね。あれはどこに行ったのでしょうか。どこでも入手ができないのですけれども。

○事務局 散策マップは、以前に文化課のほうでつくっておきまして、ちょっと聞いた話、予算がないらしくて、また、いずれリニューアルされてくるかなと思いますけれども、今はまだ折を見てというところかなと思います。

○委員 散策マップにも史跡とか名所とかがたしか載っていたと思うのですけれども、私、大多喜ってありますよね、千葉県内に。あそこの中の方なのか、市の方なのかわからないのですけれども、やっているインスタグラムをフォローしてまして、それが何かいいねというのなのです。ただ単に鉄塔と夕日だったりとか、田んぼの風景だったりとか、自転車で走っている人だったりするのですけれども、すごい魅力的な風景があって、何だか大多喜に行きたくなるのです。そういう、ちょっとした町なかの風景とか散策マップを合わせると、そんなにお金がかからずに、今あるものが全部生かせるんじゃないかと思いました。

○委員 関連して、マップですけれども、私ウォーキングが好きだから、いろいろ近隣のマップを探していたのです。そしたら印西市で4地区のマップを無料で、市内の人が対象だったらしいのですけれども、知っている人がいて、もらったのです。4冊、何とか地区、何とか地区、何とか地区と、ちゃんと作成者が歩いて、有志だと思うのです、郷土を守る会とか、それで立派な4冊のマップができています。今は配布しているかどうかかわからないです。そこまでいかなくても、今言われたように、白井の中の見所

みたいなやつマップがあると、もうちょっと動きやすいのですけれども、ぜひ。

○森吉委員長 ありがとうございます。

○委員 いいですか、発言ばかりして申しわけないのだけれども、それこそインターネットにそういう掲載されていれば。

○委員 インターネットでダウンロードできます。

○委員 お金要らないです。印刷できます。

○森吉委員長 次につながる、また具体的な提案もたくさんいただいたので、ぜひ事務局のほうで検討いただいて、また次のネットワーク会議で産業振興につながるように計画していただければと思います。では、この議題は終わりにします。

最後の議題、その他について、事務局からお願いいたします。

○事務局 最後なのですけれども、報告という形で、皆さんの手元に別紙でA4横の資料をきょう配付してあるので、それを見ていただければと思います。

この2年間、きょうが産業振興ネットワーク会議は最後になりますので、これまで皆さんに意見をいただいたことや実際意見に対して、こんなことをやっていますということをもとめたので、最後にご報告したいと思います。

第1回では、市の総合計画について理解を深めまして、産業振興のデータを示しながら、市の状況を理解いただきました。2回の会議では、まち・ひと・しごと創生総合戦略のアンケートから、もうちょっと細かいデータはないのかとご意見をいただいた関係で出させていただいて、ここでは遊休農地や土地の利活用を積極的に行えないのかとか、あとは、しろい梨のブランディングについて、もう少し強化したほうがいいのじゃないのかとか、意見が出されております。

これに対して、ことし平成30年度に入りましては、梨のブランドの強化ということでは、新規で歌舞伎座でのしろい梨の販売や、市民プールでの農産物販売など、新しい事業を取り入れてPRさせていただいたところです。第3回では、国の認定を受けての創業支援を強化していこうという1期、2期から、きょうお話もいただいていたので、市の創業支援事業計画をつくって、創業者スタートアップを支援する制度をスタートさせますということを提案させていただいたことと、徐々に創業者がふえていって、地域経済の活性化につながっていけばということでした。

それと、さまざまな社会的課題を提供というか、情報共有していこうということで、幅広いことをテーマとさせていただいて、参考までにということで情報共有したところです。昨年29年度については、創業支援実施計画をそれに合わせ実施して、計画をつくったというところと、あと30年度に入って、どこも人手不足だよ、後継者不足だよということがありましたので、ことし、つい先週、経営支援セミナーで産業振興センターさんということで、小川さん来ているので、連携させていただいて、合同のセミナーを開催させていただいたり、商工会と連携しまして、後継者不足、後継者対策セミナーと

いうことをあわせてやっております。

あと合同企業説明会、白井市版だったり、工業団地見学ツアーなどを実施したところ  
です。今年30年度第1回目では、農商工における取り組みについて説明、理解を深めま  
して、あと新しい制度、生産性向上特別措置法に係る中小企業の設備投資支援、制度設  
計しましたとお話しただいて、どんどん、どんどん設備投資支援を後押しして活性化  
していければいいなということで取り組みをいただいております。

観光振興については、これから外国人がどんどん白井市にも、移住定住でもあろうか  
と思っておりますが入ってきますので、そうしたところを観光農園なんかを活用していけない  
かなどと、ご意見をいただいたところがございます。市のほうでは導入促進計画を策定  
し、中小企業の設備投資支援を行う運用をしているということです。

第2回では、白井の商業における現状ということで、データを含めまして、商業者が  
減少しているよ、活性化していきたいのだということをお話しただいたことと、それ  
とあわせて商業施設の誘致促進を図るための優遇制度を創設し、商業施設等の企業誘致、  
また物流施設等の誘致を都市計画課と連携して、公益的施設誘導地区を位置づけた上で、  
インセンティブ制度をつくりました、これを活用していきましょうということをご報告  
させていただきました。

あと、しろい梨のポータルサイトによる白井市の直売所などを案内配信しているこ  
ころです。

きょうは最後に、都市経済常任委員会委員と意見交換会させていただいたことと、き  
ょうの最後のテーマのテクノロジーの利活用ということで、シェアリングエコノミーが  
一つ考えていってはどうということと散策マップがあればいいよねというご意見をいただ  
いたところ。こうしたことを2年間、皆さんにさまざまなご意見をいただいて、でき  
ることは少しずつ取り入れつつ、難しいことは今後、徐々につなげて、皆さんと一緒に  
意見交換会していければと思っております、2年間ありがとうございました。

事務局からは以上になります。

○森吉委員長 ありがとうございました。第1期、2期では、ここのネットワーク会議  
での結果が、具体的な市の施策につながったり補助金を獲得したり、あるいはここに具  
体的に提案するなど、いろいろな成果につながっていったと思っておりますので、この3期の  
成果も、引き続き市の政策、施策につながるように活用していただければと思えます。

それでは皆さん、あっという間の2年間でしたけれども、これで第3期のネットワー  
ク会議を終了させていただきたいと思えます。今後、次にまたつながっていくと思いま  
すが、引き続きこの意見が市の施策につながっていくことを希望したいと思えます。ど  
うも皆さん、ありがとうございました。